神様HELP!! or HELL?

猫叉木三太夫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
神様ＨＥＬＰ！！　ｏｒ　ＨＥＬＬ？

【Ｎコード】
Ｎ６３０３Ｚ

【作者名】
猫叉木三太夫

【あらすじ】
異世界に召喚されたクソ生意気ＪＫ巫女が召喚したのはヲタ青年でした。
勇者召喚した筈なのに、ヲタ青年即死亡。
と思ったら、即復活。
しかし、中身は別の異世界の神様でした。
というお話。

ＪＫ巫女出番少ないです。（＾＿＾；）

２０１１／１２／２５変更
第○話　【サブタイトル】　○番号　ｓｉｄｅ；○○
という表記にしました。
もっと良いやり方があれば、アドバイスＰｌｚです。
第三話のサブタイトルを変更しました。

ｓｉｄｅシステム習作です。
習作ですので、アドバイスなど頂けると有難いです。

プロローグ　【神様の独り言】（前書き）

習作投下開始です。
割りと短時間で書いてます。
誤字脱字他、アドバイスなどありましたら、宜しくご指導ください。

プロローグ　【神様の独り言】

吾輩は神である。
名前はもう無い。

とか、何処かのフレーズをインスパイア。

神というのは、本当（マジ）。マジデｍｊｄ。
司る世界は既に自ら滅び、祈りを捧げる民も無い。『名前』を失い、
『存在』も失った。
つーわけで、ぶっちゃけヒマである。

おや？　妙な言語化思考。
自己認識出来るという事は、何処かと接続（チャネル）したかな？

「誰か・・・誰か助けて・・・神様・・・」

お。呼ばれてるぽい。
どうせヒマだし、行ってみるかな・・・

プロローグ　【神様の独り言】（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第一話　【異世界召喚】？　ｓｉｄｅ；巫女？（前書き）

いきなり神経を逆撫でするヒロイン（？）登場です。
初稿から暴言率三割減で手直しましたが、やはりイラッとしますね。
自分のキャラクターで、ここまで嫌いな娘は初めてです。
でもそれがいい、と言えるようになるのかなぁ。

第一話　【異世界召喚】？　side；巫女？

「もうコイツ最悪マジサイテー！」
ワタシは思わず叫んでしまった。
目の前には冴えないヒョロ男が死んでます。
ワタシ、現在マジピンチ。
勇者召喚とかマジ無理だったさ。
ヤバレベルＭＡＸの魔竜山脈の祭壇まで、ムリクリ引っ張って来られて、「勇者召喚しろ」とかフザケンナ。
しかも魔王軍にバレてるとか、アリエナイっしょ。
ドラゴンとか強さＭＡＸな連中に襲撃されて、騎士団全滅寸前。
どうにか勇者召喚成功！とか思ったら、速攻即死とかマジカンベンしてくれる？
あ～あ。短い人生だったな～。
『巫女様』とか祭り上げられて調子乗ってたからバチ当たったかな～。
処女のまんま死んじゃうのか～。
クッソ～。恋くらいしたかったぞ。コンチクショ～。
（ふむ。それがお前の願いか？）
え？なに？今の声。
（俺か？俺は神様だよ）
やべえ。ワタシ、テンパって幻聴とか聞こえてるよ。
（何故、幻聴だと思う？お前は巫女だろう？）
いや、ワタシってばナンチャッテ似非巫女（エセ）だし、神様と接続（チャネリング）とかできないし、って何ワタシ幻聴と会話してんの。
（フハハ。面白いな、お前）
ほっとけ！コッチはマジピンチなんだから、幻聴の相手してるヒマなんか無いっつーの。

（助けてやろうか？）

え？

（助けてやろうか？と言った）

え？　マジで？！

第一話　【異世界召喚】？　ｓｉｄｅ；巫女？（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第一話　【異世界召喚】？　ｓｉｄｅ；神様？（前書き）

神様です。
元がカラッポ状態なので、呼ばれた相手の影響が大きいです。
読みにくくてすいません。

第一話　【異世界召喚】？　side；神様？

呼ばれた感じに引っ張られて来て見れば、そこは地獄絵図。
金属鎧を身に付けた騎士団と異形の魔王軍が戦っているが、どう見ても騎士団全滅寸前。
下等種とはいえドラゴンまでいるのか。
コレはもうダメジャンよ。
マジ無理ゲー。

むう。言語化思考が安定しないな。
さて、我を呼んだのは誰だろうか。

ふむ。円環石柱群（ストーンサークル）の祭壇の中央で震えている少女か？

（ーーー速攻即死とかマジカンベンしてくれる？
あ～あ。短い人生だったな～。
『巫女様』とか祭り上げられて調子乗ってたからバチ当たったかな～。
処女のまんま死んじゃうのか～。
クッソ～。恋くらいしたかったぞ。コンチクショ～）

ふむ・・・見た目は可憐な乙女といった風情なのだがなぁ。
目の前で死んでいる人間がいるというのに、自分の事しか考えていないとは・・・。
そもそも、その死の原因は、己にあるのではないか？

この娘の思考に引っ張られないようにしなければ。
しかし、この安定した思考の主は・・・。
おや？

第一話　【異世界召喚】？　ｓｉｄｅ；神様？（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第一話　【異世界召喚】？　ｓｉｄｅ；ヒョロ男？（前書き）

ヒョロ男です。
主人公（？）です。
ヲタ男にするか迷いましたが、ＪＫ巫女の命名により、ヒョロ男になりました。
アニヲタでロボヲタでミリタリーヲタです。
ラノベも読んでます。
これなんて俺？と思った人手を挙げて。

（，　▽　、　）ノ　ハーイ

第一話　【異世界召喚】？　ｓｉｄｅ；ヒョロ男？

参った。
本屋の帰りにピカッと光って、山の上に来たと思ったら、ビリッときて、気がつけば幽体離脱状態とは。
気が付いたら足元に身体あるし、自分見たら透けてるし。
やっぱり死んでいるよなぁ。
うつ伏せで倒れてるから前の方は見えないけど、背中焦げてるし、プスプス煙出てる。

コレはアレだな。
所謂（いわゆる）、異世界召喚ってヤツ。

周りで戦っている外人さん達も、ファンタジーっぽい鎧姿だし。
なんか亀とかトカゲみたいな魔物っぽいのと戦ってるし。
デカいドラゴンまで飛んでるし。
さっきからピカッとかゴオッとか魔法っぽいの飛び交ってるし。

で、俺は召喚されたところに、雷撃魔法（サンダーボルト）とかが飛んできて、感電死と。

うーむ。冷静に状況分析とかしてしまった。
やっぱり現実感ないんだよなぁ。
見た感じ、ただの（？）幽体離脱っぽいし。

あ。さようなら～。
周りで戦っている騎士さん達がどんどん死んじゃってるんだけど、次から次へと光になって昇天しているので、手を振って見送ってみました。

魔法とかあるなら、蘇生魔法とかないのかな？
回復魔法はあるっぽいんだよね。
さっきから、僧侶っぽい格好（聖職者のローブっぽいアレ）の人が怪我した所に手を当てて、ごにょごにょ唱えると、うすボンヤリ光って、出血が止まったりしてる。
アレは回復魔法に違いないです。
ヒールとかケ〇ルとかホ〇ミとかに間違いない。名前は知らないけど。
リザレクションとかレ〇ズとかザ〇リクとかは無いのかねぇ。
まぁ、ないっぽいけど。

死亡即昇天っぽい。

目の前でバタバタ死んでいる騎士さん達も、死亡したらアッサリ昇天してるしな。
俺も昇天するのかなぁ。
なんか、そんな感じが全然しないんだけど。
地縛霊とか浮遊霊とかは、嫌だなぁ。

だいたい、こういうのって勇者召喚とかだよね？
だったら、チート的なアレとか超パワー的なコレとか無かったのかね？
喚ばれて、すぐ死亡ってクソゲー過ぎだよ・・・。
スペ〇ンカー並に。
まぁ、アレはアレで伝説だけど。

現実逃避してる場合じゃないか。

あと、さっきから気になってるんだけど、目の前で怯えてる女の子が居るんだよね。
俺の死体に怯えてるって訳じゃなさそうだけど。
まぁ、どう見ても絶対絶命な状況だし、仕方ないよねぇ。

この子が俺を召喚したのかな？
なんとなくだけど、他の外人さん達とは全然違う感じがする。
お？　この子、日本人っぽいな。髪も黒いし。
顔もバッチリ日本人顔だし。
割と可愛いな～。俺には縁がなさそうなタイプ。
うう。自分で言ってて落ち込みそうだ。
そもそも、なんで日本人の女の子が俺召喚？

うーむ。これからどうしたらいいのかね？

あれ？　なんかピカピカすごいモノが降りて（？）来た。

（我を呼んだのは、汝か？）

おお？！　なに？！

第一話　【異世界召喚】？　ｓｉｄｅ；ヒョロ男？（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第一話　【異世界召喚】？　ｓｉｄｅ；神様（前書き）

あたしゃ神様だよ（チガ

神様はヒョロ男の内的イメージで存在確定。

インプリンティング？

第一話　【異世界召喚】？　side；神様

少女の傍らに佇む青年の霊魂を見つけ、声を掛けてみる。

（我を呼んだのは、汝か？）
（おお？！　なに？！）

（助けを求める声に引かれて、我は来た）
（え？！　俺じゃない・・・と思います）

ふむ。強く引っ張られたのは、少女の方だったが、呼ばれた感じはこちらの様に思える。
それにしても、この青年のイメージする“神”というモノは、随分と大仰な話し方なのだな。
司る世界も祈る民も無い我は、姿も話し方も認識する者のイメージによって在り方を左右される。
この青年には、”神”の姿の具体的なイメージが無い為に、何だかピカピカ光るモノになったのだろう。

（汝は死の直前に、我を呼んだのではないか？）
（う～ん。即死って感じなので、よく憶えてません）
（呼んだ記憶は無いか）
（はい。でも、苦し紛れに呼んだかもしれません。ビリビリが酷く苦しかったですから）

ふうむ。死の直前に青年に呼ばれ、我が気が付いたところに、少女から接続（チャネリング）されたといったところか。

（えっと、すいません。今更の確認ですけど・・・神様ですか？）

遠慮がちに訊いてくる青年の態度は、実に好感が持てる。
（うむ。我は、所謂神と呼ばれたモノだ）
（おお！神様キタコレ！）

青年は、妙なテンションで声をあげ、すぐに
（すいません）と謝った。
そして、意を決したように口を開いた。

（お願いがあります！）
（何だ？出来る事なら叶えてやろう）
（生き返らせてください！）
（無理だ）
（えええええ？！）

青年は愕然としている。
希望を与えてから叩き落とすような真似をしてしまった。
ううむ。きちんと説明せねば。

（真に済まぬが、我は、この世界の神ではない。よって、此岸の事象に干渉する事は出来んのだ）
（この世界の神ではない？）
（左様。我は、この世界とも汝の世界とも違う、既に滅びた世界の、名も無き神）
（ネームレス・ワン？）
（・・・？　よく判らぬが違うと思うぞ）
（すいません・・・）
（兎も角、今の我は、著しく能力は制限されているので、全知でも全能でもないのだ）

（この世界の神様は、何をしてるんですか？）

我は、存在的に”上の方“を見た。

（ううむ。“神の座”には誰も居らぬ）

（おお！そしたら今のうちに・・・）

（”神の座”を簒奪（さんだつ）するなど出来るか！　そもそも居らぬだけで空位ではない）

（ちょっと離席（afk）中という感じですか？）

（多分、その様なものだろう）

（この世界の神が居れば、何とか成ったかもしれぬが・・・。済まぬ）

（いえ。そういう事情なら、仕方ないでしょう。　となると、これからどうしたらいいのかな～）

（ふうむ。汝の魂の有り様は、この世界のそれとは随分違うのでな）

（どうなります？）

（この世界の輪廻転生（うまれかわり）の輪には入れぬ）

（成仏出来ない・・・とか？）

（左様。恐らく地縛霊になった後、自然の精霊達が時間を掛けて自然霊に分解していくのだろう）

（自然霊・・・ですか）

（うむ。そしていずれは何者でもない遍在（どこにでもいる）する精霊となるだろう）

（う～～～ん。地縛霊から自然霊にクラスチェンジ後、精霊になる訳ですね）

（概（おおむ）ね、その様なものだろう）

この青年は、わざわざ解りにくい表現に言い直すのが癖なのか？

まあ、いいのだが。

（精霊かぁ。精霊になって、この世界を見て周るのもいいかなぁ）

（残念ながら、それは出来ない）
（え？）
（何者でもない、と言ったであろう。精霊となれば、自我など無い
ただ存在するだけのモノとなるだろう）
（うう。それは嫌だなぁ。他人（ヒト）に迷惑を掛けずに済みそうなのはい
いけど）

なんともお人好しな青年だ。
どうにかしてやりたいものだが・・・。

第一話　【異世界召喚】？　ｓｉｄｅ；神様（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第一話　【異世界召喚】？　ｓｉｄｅ；青年（前書き）

ヒョロ男が青年にクラスチェンジしました。
青年はヲタですが、普通に暮らす、普通の大学生です。
そして、普通に善良です。
霊魂状態で神様と接触したせいで、ちょっと浄化された為に、通常より１．７５倍ピュアになってます。（当社比

第一話　【異世界召喚】？　side；青年

う～ん。参った。
精霊とかカッコいいかも、と思ったら、自我も無いモノになってしまうとは・・・。
なんか参ってばっかりだ。

それはそれとして仕方ないかもしれないけど、心残りも有るんだ。

（あのぅ、神様）
（うむ？　どうした？）
（そこの女の子を助ける事は出来ませんか？）

神様と話している間も、ずっと震えている女の子が目の前に居て、気になっていたんだよね。
此岸（あっち）と彼岸（こっち）では時間経過が違うのか、騎士団全滅寸前の絶体絶命フラグ状態から、それほど時間は経っていないっぽい。
それでも、遠くない未来に女の子が殺されるのは、確実なんじゃないかと思う。
それは、なんか嫌だ。

（ふむ。その娘が、汝を喚（よ）び出した所為で、汝が死ぬ事になったとしてもか？）
（あ、やっぱり。そうなんじゃないかと思ってました）
（それでも助けたいと申すか）
（それでも、です）

全然腹が立たないと言ったら、嘘になるけど。
それでも、助けたい。

自分が不甲斐なかった所為で死なせてしまうのが嫌とか、人が死ぬのを見たくないとか、イロイロ理由はあるけど、後付けなんだよね。
やっぱり、可愛い女の子は助けたいよね。
男だったらさ。
いやぁ、ぶっちゃけ、顔面が不自由な女の子だったら、・・・ゲフンゲフン。
それはさておき。

（助けられませんか？）
（ううむ・・・）

ピカピカ光るモノなので顔とか無いけど、なんとなく顔を顰(しか)めたように感じた。

（なにか問題でも？）
（ううむ。汝に伝えて良い迷うのだが・・・。　あの娘の心根は、余り良いとは言えぬ）
（あ～。それはそうっぽいですね）

だって、目の前で死んだ人に対して、『もうコイツ最悪マジサイテー！』とか言っちゃうくらいだからなぁ。
見た目、清楚なお嬢様風なのに、すごいギャップ。
喚(よ)び出されて、なんかヤバい感じがしたんで、とっさに庇ったら即死だもんなぁ。
たぶん、庇われた事も気が付いて無いんだろうなぁ。
やっぱり俺みたいなヲタが、キャラの違う事やっちゃ死亡フラグだよね。
これで復活して、命の恩人フラグ回収出来たら良かったんだけど。
現実は甘くありませんでした。終了。

凹むわ。
ｏｒｚ　こんな感じで。
でもまぁ、それとこれとは話は別だよね。
やっぱり、助けられるものなら、助けたい。

（どうしても助けたいと言うのならば、方法も有るには有る）

第一話　【異世界召喚】？　ｓｉｄｅ；青年（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第二話　【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；神様（前書き）

神様デレてます。（チガ・・・くない？

第二話　【勇者復活】？　side；神様

なんとまあ、お人好しな青年だろうか。
あの身勝手な少女の事を理解した上で、なお助けたいと言う。
ならば、出来うる限りの事をやらねばならぬ。

（どうしても助けたいと言うのならば、方法も有るには有る）
（有るんですか？！）
（うむ。ただし、幾つか条件が有るのだ）
（条件・・・ですか）

我の『条件』という言葉を聞いて、青年は緊張した様子になった。

（まず、汝の事だが、汝の霊魂を『魂（こん）』と『魄（はく）』に分けねばならぬ）
（『魂』と『魄』ですか）
（うむ。『魂』は汝の本質。核の様なモノで『存在そのもの』と言って良い）
（では、『魄』は？）
（『魄』は、言わば汝の個性とでも言えば良いか。汝が人生で積み重ねた経験や功徳罪業、そういったモノだ）
（う～ん。ＯＳとソフトみたいなモノかなぁ？　それかゲームソフトとレベル上げしたキャラデータ？）
（・・・相変わらず良く判らぬが、それで良い）

青年は、首を傾げてフムフムと頷いた。
とりあえず判れば良いが、いちいち判り難く言い直すのは、どうにかならないものだろうか

（次に、汝の『魄』と肉体を我に捧げて貰わねばならぬ）

（捧げる・・・？）
（汝の肉体に我が宿る事によって、この世界に存在する為の依り代を得る。『魄』を継承する事によって、此岸に干渉する権利を得るのだ）
（それだけで神様は力を使えるようになるんですか？！）
（それだけ、と軽く言える事ではないぞ）
（と言いますと？）
（汝は『個』を保つ事が出来ずに遠からず消滅する）
（え？）
（我も、肉体を得たとしても全ての力が使えるわけではない。加えて『死』の可能性を得ることになる）
（・・・『それだけ』なんて軽く言っていい事じゃないですね）
（しかし、そうする事によって、我は、全能ではないが大きな力が使えるようになる。汝の『魂』を生まれた世界へ送る事も可能だ）
（ええ？　マジですか？）
（うむ。本当（マジ）だ。生まれた世界で転生する事になるだろう）
（・・・ここで生き返るのは、無理なんですよね？）
（それは無理だ。力を使えるようになるには、汝の『魄』と肉体が必要だからの）
（ですよね～。言ってみただけです。すいません）

青年の方の条件は以上だが、もう一つの条件が厳しいかもしれぬ。

（もう一つ、条件がある）
（なんでしょうか？）
（これは汝ではなく、あの娘にして貰わねばならぬ事だ）
（あの女の子に？）
（うむ。我が此処に在るのは、汝が呼び、あの娘が引き寄せた為である）
（そうだったんですか）

（それ故、汝の肉体に宿るに当たり、あの娘の協力が必要なのだ）
（どんな協力が？）
（口寄せで、我を汝の肉体に吹き込んで貰わねばならぬ）
（え？　それって・・・）
（所謂（いわゆる）、接吻だの）

（えええええええ？！）

第二話　【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；神様（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第二話　【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；青年（前書き）

すいません。Ｊ〇ＪＯ、割と好きです。
そして、青年の重大決心。

第二話　【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；青年

あ・・・ありのまま　今　起こった事を話すぜ！
この状況を何とかするには美少女とキスする必要があるらしい。
何を言っているのか　わからねーと思うが（以下略

とかＪ◯ＪＯってる場合じゃねＥＥＥＥＥ

（えええええええええ？！）

って、良く考えたら、俺死んでるし。
全然嬉しくな・・・くもないんだが、ちょっと嬉しいと思ってしまうのが、情けないやら哀しいやら。
ファーストキスが幼稚園の時で、それ以来セカンドとかナッシング。
しかも、生前なら絶対チャンスの無いような美少女とキスとか、喜んで何が悪い！
俺、死体だけどな！

・・・って、死体にキスとかハードル高すぎるんじゃないかと。

（俺はいいんですけど、あのコは無理なんじゃないでしょうか）
（無理でもやって貰わねばならぬ）
（こう言っては何ですが、今どきの女の子・・・じゃなくても死体にキスとかハードル高すぎですよ！）
（やらねば、あの娘も死ぬだけだ）

う～ん。そうなんだよなぁ。
だからって、出来るもんかなぁ。
俺って、ブサメンじゃないと思うけど、喜んでキスして貰えるほど

のイケメンでもないしなぁ。
てか、どうやってそれをあのコに伝えるんだ？

（出来る出来ないは別にして、どうやってそれを伝えるんですか？）
（心を読む程度の事は今のままでも出来るのだが、こちらの意思を伝えるには、汝の『魄』が必要となる）
（話をするところから、俺の『魄』は必要なんですか？）
（我とあの娘には『縁』が存在しないのでな。　汝は霊魂となり彼岸に来たので接触出来たが、そもそも我にはこの世界に干渉する力は無いのだ）
（何かするにしても、まずは俺の『魄』が必要なんですね）
（汝は、この世界に召喚され此岸に存在し、あの娘に喚び出され『縁』が出来た）
（一瞬で終了でしたが・・・）

苦笑するしかない感じの『縁』だけど。
偶然で喚び出されても、『縁』は『縁』か。
登場即退場でも確かに存在したし、死体だけど今も存在してる。

（我は只の通り過がりの神にすぎぬ。この世界に干渉する権利を持っておるのは、汝なのだ）
（権利、ですか）
（そう。権利だ。義務ではない。このまま成り行きを黙って見ておっても、誰も責めはせん。無論、我もな）
（ここには俺と神様しか居ませんしね）

神様は俺を責めないと言ってくれた。
でも、『誰も責めない』って訳にはいかない。
何故ならば。

（俺が、俺を責めます）
（今の状況は、汝に一片の責任も無いのだぞ？）
（そうかもしれません）
（むしろ、汝は被害者だ）
（ですよね）
（それでもか？）
（それでも、です）

俺だって男だもんなぁ。
ヲタだってカッコつけたい。
女の子見捨てて地縛霊状態を維持とか、カッコ悪過ぎだよね。
地縛霊ってだけでもアレなのに、卑怯者までトッピングされたら情け無いにもほどがある。
それに良く考えると、この状況で女の子死んだら、ここで地縛霊だよね。
精霊にクラスチェンジするまで顔つき合わせて地縛霊とか気不味（キマズ）過ぎ。
そう考えると、失敗したって消滅して会わないで済むだけマシかもしれない。

（本当に、良いのか？）
（いいです。失敗して消滅した時は、運が無かったって諦めます）
（何というか・・・汝は本当にお人好しだな）
（そうかもしれません。けど、結構自分勝手ですよ？　後の事は、全部神様に丸投げだし）
（ははは。言われてみれば、そうだのう）
（アハハ。そうですよ）

神様と二人で、ひとしきり笑った。

（では、始めるぞ？）
（お願いします）
（本当に良いのだな？）
（本当に、お願いします）
（本当の本当に、）
（もう本当に良いんで、やっちゃってください。あんまり長引くと怖くなります）
（了承（わか）った）

神様の気配が、ズンと強くなると、意識が次第にボンヤリと薄らいでくる。
このまま消えてしまうような感じがして、ちょっと不安になった時、温かい何かに包まれて、ホッとした。

しばらくすると、神様の声が遠くから聞こえてきた。

（汝は真（まこと）の勇者なり。汝の魂は清く正しい。我は力の限りをもって、汝の魂を祝福する。汝の来世に幸（さち）あれ）

神様ありがとうございました。
さようなら。

第二話　【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；青年（後書き）

という訳で、青年は退場です。
これから益々読みにくくなります・・・？
すいません。努力します。

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第二話　【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；神様　ｉｎ　青年『魄』（前書き）

神様ヤンです。（チガ・・・と思う。

途中で混線気味になりますが、巧い処理が思いつかず、この様な形に。

そして、やっと最初に繋がります。

第二話　【勇者復活】？　side;神様　in　青年『魄』

青年の霊魂の分離は成功した。
人型（ヒトガタ）の『魄（はく）』から、薄く複雑に色付いた透明なモノが剥離した。
無垢というには複雑な色彩の、だからこそ美しい、青年らしい『魂（こん）』だった。
そして、残された青年の『魄』に重なり、『ひとつに』と思（ねが）った。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

俺は、彼の『魂』を包み込み、開放された僅かな”力”を使って可能な限りの『保護』を施した。
ほんの気休めにしかならないかもしれないが、『魂』が消滅してしまうまでの時間を少しでも稼ぐ助けにはなるだろう。

彼岸（こちら）から見れば、此岸（あちら）の時間は、さっき少女と接続（チャネル）した瞬間から止まっているが、再び接続した瞬間から時間は流れ始める。
彼の肉体も死の直後で止まっているが、俺が入って蘇生するのが間に合わなければ、全てが水の泡だ。
出来るだけ迅速に、『やるべきこと』をやらねばならない。
正確には、『やらせるべきこと』だが。

あの醜悪な思考に接続するのは気が重いが、仕方がない。
彼の願いを叶える為にも、最大限の努力をしよう。
というわけで、再接続。

（ーーークッソ〜。恋くらいしたかったぞ。コンチクショ〜）

相変わらず胸糞悪くなる思考だな。

反吐(ヘド)が出る。
彼の願いでなければ、助ける気などカケラも起きないな。
でもまぁ、彼の願いだ。
俺の『やるべきこと』をやろう。

（ふむ。それがお前の願いか？）
（え？なに？今の声）
（俺か？俺は神様だよ）
（やべえ。ワタシ、テンパって幻聴とか聞こえてるよ）
（何故、幻聴だと思う？お前は巫女だろう？）
（いや、ワタシってばナンチャッテ似非(エセ)巫女だし、神様と接続(チャネリング)とかできないし、って何ワタシ幻聴と会話してんの）

おやまあ。彼を召喚して死に至らしめ、俺を引っ張り出したという事を自覚していないのか。
自分の都合で一人の人間を死なせておいて、何も感じていないというのは、怒りを通り越して、いっそ笑えてくるな。

（フハハ。面白いな、お前）
（ほっとけ！コッチはマジピンチなんだから、幻聴の相手してるヒマなんか無いっつーの）
（助けてやろうか？）
（え？）
（助けてやろうか？と言った）
（え？　マジで？！）

ああ。マジだ。
彼の願いだ。
どんな手段を使っても助かってもらうぞ。
勿論(もちろん)、『やるべきこと』をやってもらうがな。

（その為に、やってもらいたい事がある）
（何？ナニ？）
（なぁに。簡単な事さ）
（痛いのとか、キツイのはイヤよ）

自分の命が掛かっているというのに、気楽なものだな。
周りで命懸けで戦っている騎士達の事など、考えてもいないのか。
彼らは、今も苦痛と恐怖に耐え、お前を守って戦っているのに。

（本気で助かりたいのかい？）
（本気ホンキだよ！）
（そうは聞こえないなぁ）
（イヤ。ホント。助けてほしいデス！）
（なら『何でもする』か？）
（『何でもする』よ！）
（『約束する』か？）
（『約束する』よ！）

契約成立。
勢いで言った事だろうが、『言質（げんち）』は取った。
気が付いても、もう遅い。
簡易な”言霊縛（ことだま）り“だが、今の俺でも使えるレベルの“力”だ。
まぁ、気が付いてもいないようだが。
できればコレを使わずに、自分の意思でやってもらいたいんだがな。

（やってもらいたい事は簡単だよ）
（えっと、どうすればいいの？）
（目の前に、青年が倒れているだろう？）
（ウン。役立たずのヒョロ男ね）

本当にムカつく女だ。
彼の願いでなかったら、助ける価値など糞ほども無いのに。
むしろ糞の方が肥料になるだけマシだ。
しかし、彼の『魂』を送る為にも、”力”は必要だ。
我慢しよう。

（その青年の肉体にキスをして、息を吹き込むだけだよ）
（うげ～。ナニソレ。マジありえね～。できるわけないじゃん！）
（痛くもキツくもない、簡単な事だと思うけどな）
（イタイのはアンタの頭だっつーの。死体にキスとかヘンタイじゃないの？！キモッ！マジ死ね！）

むしろお前が死ね。クソ女。
と言いたい所だが、まだ死んでもらっては困る。
これだけクズだと、どんな手段を使っても心が痛まなくて助かるな。

（『その青年と口付けを交わし、息を吹き込め』）
（だから、そんなキモいことするわけないじゃん！・・・って、なにこれ？！）

少女の身体が、本人の意思に反して動き、青年の死体に近付く。
うつ伏せに倒れている青年の肉体を起こして、口付けた。

第二話　【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；神様　ｉｎ　青年『魄』（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第二話　【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；巫女（前書き）

かなり短かいです。
ＪＫ巫女、出番が少ないです。
スレてるようで、意外に純情かもしれません。
性格は悪いですが。

第二話　【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；巫女

自称『神様』のヘンタイな幻聴（？）が、重く頭に響く声で、言った。

（『その青年と口付けを交わし、息を吹き込め』）
（だから、そんなキモいことするわけないじゃん！・・・って、なにこれ？！）

ワタシはイヤなのに、勝手に身体が動いている。
役立たずのヒョロ男の死体に近付いていく。
うぎゃー。なんかプスプス煙が！
なんか焦げてるって！
ううううう。吐きそう。

うつ伏せに倒れてるヒョロ男の肩を持って、上向きにする。
あら。焦げてたのは、服だけだった。
顔とかはキレイなままだ。
祭壇の石で、ちょっと擦り傷あるけど。
うーん。イケメンじゃないけど、優しそうな男の人だ。
大学生くらいかな？

って、顔近い！ちーかーいー。
ううう。実は、ファーストキスなのに。

・・・あ。いま。なんか、身体を通って、この人の中に入っていった感じ。
だめだ。ちからがぬけ・・・る・・・。

第二話　【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；巫女（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第二話【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；神様　ｉｎ　青年（前書き）

もうすぐ主人公らしくなります。
もう少々お待ち下さい。

第二話【勇者復活】？　side；神様　in　青年

”言霊縛り“は、思った以上に上手くいった。
少女の身体は、俺の指示通りに動き、彼の肉体と口付けをして、『命吹』を吹き込んだ。
腐っていても『巫女』だけのことはある。
俺は、少女の肉体を介して彼の肉体に入り、『魄』と共に同化した。
まずは肉体の損傷部位の確認。・・・背部表皮から深層筋の一部に高圧電流による重度熱傷、高圧電流に感電した事による心筋破損及び血流停止による心筋壊死、それに伴う脳細胞の欠損・・・。
俺の”力”を使って、肉体の損傷部位の再生と蘇生を行う。
そして、俺と『彼』は、ひとつになった。

『我』だったモノと『彼』が混ざり合い、完全に『俺』という存在となった。
急激に『彼』だった知識と、『彼』に与えられた“力”が、理解った。
『彼』は、無力なんかじゃなかった。
もし死んでいなかったら、『勇者』と呼ばれるに相応しい活躍をしていただろう。

俺は『彼』と同化して、更に開放された”力”を使って、最初の約束を果たす事にした。
保護していた『彼』の『魂』を開放し、できる限りの”力”で”祝福“を与えて、『彼』の世界に送り出す。
旅立つ『彼』に、別れの言葉を贈った。

（汝は真の勇者なり。汝の魂は清く正しい。我は力の限りをもって、汝の魂を祝福する。汝の来世に幸あれ）

（神様ありがとうございました。さようなら）

『彼』の優しい声が聞こえ、去った。

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

さて、気は乗らないが、もう一つの約束も守らねばならない。
クソ女を助ける。
『彼』の願いでなければ、真っ平御免だが。

騎士達は死に物狂いで戦っているが、健闘していると評するには辛い状況だ。
まさに絶対絶命。
不謹慎な言い方かもしれないが、最高のシチュエーションだ。

『彼』が、この世界に来た事が無意味ではなかったと証明しなくてはならない。
俺の、そして『彼』の“力”を使って、勇者の証（あかし）を立てよう。
俺が、『彼』の代わりに、勇者になるのだ。

第二話【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；神様　ｉｎ　青年（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第二話【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；騎士団長（前書き）

騎士団長です。
正解には、王国連合軍所属　勇者召喚遠征軍　護衛騎士団　団長です。
長いので略しました。

オッサンです。
こちらも叩き上げの軍人さんですが、エリートではないです。
むしろ体育会系の人なので、部下には慕われていますが、上官には煙たがられています。
今回の遠征軍も、ぶっちゃけ左遷人事です。

第二話【勇者復活】？　side；騎士団長

クソ！何がどうなっている？！
無理を承知で魔竜山脈まで来てみれば、魔王軍の待ち伏せだと？！
王国の重臣に裏切り者がいるのか？

「団長！　副団長殿が戦死なされました！」
「僧侶殿の魔力も限界のようです！」
「団長！　我々はどうすれば？！」

そうだ。今は本国の事など後回しだ。
なんとしても生き残る道を探さねば。
頼みの綱の勇者様が倒れた今となっては、せめて巫女様だけでも・・・。

「巫女様は無事か？！」
「ご無事です！　ですが、勇者様の事でショックを受けておられるようで・・・」

祭壇の方を一瞥（いちべつ）すると、祭壇の上に倒れた勇者様・・・巫女様と同郷の青年だろうか、その亡骸（なきがら）の傍に座り込み、放心した様子の巫女様がチラリと見えた。
円形の祭壇を囲むように戦い、巫女様には指一本触れさせはせぬ、と騎士達は獅子奮迅の働きをしていたが、もう限界だろう。
我々の油断を突いて祭壇の巫女様を狙った雷撃魔法（サンダー）を、勇者様が替わりにその身に受けて倒れてしまった。
本来、我々が受けるべき死を、よりによって最後の希望となるべき勇者様に与えるとは、神も無慈悲な事をなさる。

「だ、団長！　勇者様が・・・」
「どうした？」
下級騎士の一人が挙げた声で、祭壇の方を振り返って、見た。
そこには、先程まで死して倒れた筈の勇者様が、スックと立つ姿があった。

第二話【勇者復活】？　ｓｉｄｅ；騎士団長（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第三話　【勇者覚醒】？　ｓｉｄｅ；魔王軍奇襲部隊長（前書き）

魔王軍奇襲部隊長です。
エリートですが、叩き上げの努力の人です。（魔族ですが。
自分が苦労した人（魔族ですが）なので、部下思いの立派な隊長さんです。
部下の人達（魔族ｒｙ）からも、慕われてます。
本編とは関係ないですが。

第三話　【勇者覚醒】？　ｓｉｄｅ；魔王軍奇襲部隊長

クックック。こうまで作戦が上手く行くと笑いが止まらんな。
勇者召喚遠征軍の通過ルートも日程も、全てが筒抜けだとも気付かずに、ノコノコやって来るとは。
奇襲で巫女を殺る予定だったが、勇者の方を始末できたのは、嬉しい誤算だ。
魔王様のお力で住み着いていた下等（レッサー）ドラゴンを使役できたのも幸運だった。
こちらの兵力は三百人から成る精鋭部隊だ。
百人程度の騎士団など、あと一息で潰せるだろう。
勇者を倒し、加えて巫女を生け捕りにしたとなれば、褒美も思いのまま・・・。

司令部と言うにはお粗末なサイズの、偽装魔法（カモフラージュ）が施された小型天幕（テント）の中で、オレは一人、思わず零れる笑いを圧し殺した。
椅子を置く広さも無い為、立ったまま折り畳み机の上に置かれた地図を眺める振りをしつつ、魔王様から賜わる褒美はどんな物か思いを巡らしていた。

巫女捕獲の報告を待つオレの天幕に、慌てた様子で、黒エルフの伝令兵が駆け込んで来た。

「た、隊長！」
「何事だ！」
「勇者が、・・・」
「勇者がどうした！」
「勇者が生き返りましたッ」
「馬鹿な！ありえん！」

このオレが放った雷撃魔法(サンダーボルト)は、確実に勇者の息の根を止めたはず。
魔法の腕一本で部隊長の座にのし上がったオレだ。
半人半魔と馬鹿にされ、たいした特徴も能力も無い下級魔族の三男坊だったオレが今の地位にあるのは、血反吐を吐く修行で身につけた攻撃魔法のおかげなのだ。
上級魔族のそれに匹敵する威力の魔法を食らって、息があるとは思えない。
手応えは確かに有った。その後の連中の様子からも間違いあるまい。
勇者を殺ってから宿営(した)地に降りた後で、何かあったのか？
まさか、勇者は不死身だと言うのか？
ありえん！

前線からの伝令を受け、司令部に使っている天幕から飛び出した。
山腹に設けた宿営地から、勇者召喚の祭壇がある山頂を見上げる。
円周防御陣形で戦っている騎士団の人壁が邪魔になって、巫女と勇者の姿は見えない。

「ぎゃあっ」
「うあぁぁぁ！助けてk」
「何だ、こいつら！グハァ」
「ひぃぃぃ～死にたくねぇ」
「やらせはせん、やらせは・・・」
「目が、目がぁぁ」
「魔王軍に栄光あれ～！」

突然、前線が騒がしくなり、次々と悲鳴があがった。
ヴヴヴヴヴ・・・と唸るような音が幾つも響き渡り、兵士達がズタズタに切り裂かれていく。
魔王軍の中でも選り優りの、一騎当千のエリート達がなす術もなく

死んでいくのだ。
剣も魔法も弾く防御に長けた亀甲人(タートラ)の重甲槍兵が、回避自慢で素早さでは魔族随一の砂漠鱗人(サンドリザーダ)の斥候兵が、剛力無双と言われる岩石巨人(ロックジャイアント)の長柄戦斧兵が、手も足も出ない。
何か、青く光る物がチラチラと見えるが、味方の兵士達が壁となって、敵の姿が確認できない。

先程の黒エルフが通信結晶に耳を当てながら、天幕から追って出て来た。

「どんな敵だ!? 新手か?」
「ゴーレムだそうです!見たこともない様なゴーレムが兵達を蹂躙しているとの事です!」
「なんだと? ゴーレム如きにあのような事が出来るわけがなかろう!」
「青く輝く蜘蛛の様な、金属(メタル)ゴーレムの様です・・・なに?何だ?ハッキリ言え!」
「どうした?」
「複数の蜘蛛型金属ゴーレムが、火矢魔法(ファイアボルト)を連射している、と・・・」
「訳が判らん。幻覚魔法でも掛けられているのではないか?」
複数の青銅(ブロンズ)ゴーレムが暴れているのか?
ゴーレムが魔法を使えるはずは無いから、何かの魔法具か?
さっきから聞こえてくる不愉快な唸り声が、それなのか?
ううむ。ここで考えていても、埒が開かん。

「オレも前線(うえ)に行くぞ!何人か付いて来い!」
「た、隊長! 上は危険です! 状況がハッキリするまでお待ち下さい!」

「状況が判らんからこそ行くのだ。ここで迷っている時ではない！」

身分の低いオレの実力を信じると仰ってくださり、奇襲部隊の隊長に任命して下さった魔王様の信頼を裏切る訳にはいかない。

オレは、この作戦前に魔王様より直に拝領した魔法杖剣（ソードスタッフ）を手に、山頂を目指し走り出した。

第三話　【勇者覚醒】？　ｓｉｄｅ；魔王軍奇襲部隊長（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第三話　【勇者覚醒】？　ｓｉｄｅ；神様　ｉｎ　青年（前書き）

神様無双開始です。
やっと「チート」タグが有効になります。

戦闘シーンを手直ししたら、「残酷な表現」タグも有効になりました。
苦手な方は、ご注意ください。

第三話　【勇者覚醒】？　side；神様　in　青年

俺は身体の状態を確かめながら、ゆっくりと立ち上がった。
急激に消耗した娘が、足元に倒れている。

フン。彼岸（あのよ）と此岸（このよ）を繋ぐ為に、この娘を『通路』にしたんだが、ちょっと負担が大き過ぎたか。
まぁ死ぬほどじゃない。
この肉体の持ち主だった青年の苦しさに比べれば、軽いものだ。

「さて、どうするかな」

とりあえず、声を出してみる。
彼岸での会話は、直接意思を繋ぐ会話だったので、ちゃんと声を聞いた事がなかった。
イメージ通りの、優しい声だった事に、小さな嬉しさを感じる。

周りが、急に騒がしくなってきた。
もちろん、戦闘の喧騒は、ずっと続いていたが、それとは異なる騒ぎが広がっている。
死んだはずの人間が生き返ったら、誰でも驚くよねぇ。
一際目立つ赤い総付き兜（ふさ　ヘルム）を被った騎士が、こちらを見て、固まってる。
おいおい、油断大敵だよ？
騎士さん、後ろ後ろ～。

固まってる騎士達に向かって、彼らの背後をチョイチョイと指差した。
ハッと気が付いた赤総兜の騎士が、声を張り上げて、生き残りの騎

士達を鼓舞し始めた。
生き残りは、大凡(おおよそ)五十人足らずといったところか。
頑張っているみたいだけど、全滅する前に何とかしないとね。

さっそく『彼』の、否。俺の”力“を試してみよう。
記憶の中から、今の状況に合いそうなモノを探してみる。
・・・・・・ん。
これが良さそうだ。

『我が記憶の深淵より、来たれ』

あまり目立たないように、小さく唱えてみた。
詠唱は、必要無さげだけど、気分の問題ね。
恥ずかしいから、声は小さめだけど。

目の前の空間が、霞み、揺らめくと、記憶の中に有ったモノと同じモノが、三つ現れた。
正確には、同じモノじゃないな。
同一個体を複数望んでみたら、タイプ違いが三体出てきた。
名前も違うのか・・・。
まぁいいや。
適当に呼んでみよう。

「いけ！　コマちゃんズ！！」
「「「リョウカイ」」」

俺の命令に妙に可愛い声で返事をすると、丸っこいブルーメタリックのボディーが跳ねるように移動した。
祭壇から、その周りで戦う騎士達と魔王軍の間に割り込むように、飛び込んだ。

勝手にこちらの意思を理解して動いてくれるみたいで、細かい指示は必要無いようだ。

全体的に丸っこいパーツで構成されたブルーメタリックのボディー。高速移動用のタイヤ付の細い脚を器用に使って、敵の間を走り抜ける。

左右の前脚に内蔵された七・六二ミリ連装銃身機関銃（ガトリングガン）が、唸る様な発射音を響かせて銃弾を吐き出す。

大量にバラ撒かれる小さな徹甲爆裂弾頭が、魔王軍の兵士達を、次々と薙ぎ倒していく。

太い槍を持った亀の甲羅をブチ抜き内臓を背後に散乱させる。

弓を構えたトカゲが胴体を真っ二つに切り裂かれて、上半身と下半身が別々の場所で痙攣している。

長柄戦斧（ハルバート）を振り回す岩の巨人が集中放火で岩石の皮膚を砕かれ、露出した赤黒い筋肉をズタズタの挽肉（ミンチ）にされる。

様々な断末魔と命乞いが聞こえてくる。

さっきまで聞こえていたのは、人間の悲鳴と断末魔。

変わらないのは、剣戟と怒声。

押し寄せる魔王軍の兵達が、コマちゃんズが駆け回るのに合わせて倒されていくと、一気に形勢が逆転した。

総崩れになって山を降りようと狭い山道に殺到する魔王軍の兵達の背後から、勢いを取り戻した騎士達が襲いかかる。

素早く動ける魔族は回り込んで騎士達の背後を突こうとするが、各種センサーを備えるコマちゃんズに悉く阻（ことごとはば）まれ、挽肉になっていた。

これまでの鬱憤を晴らすかの様に、剣が斧が槍が振るわれ、魔王軍を平らげていく。

ふ、と騎士達の頭上に影が差した。
目を上げると、乱戦を避けて上空に控えていた下級（レッサー）ドラゴンが舞い降りようとしていた。

第三話　【勇者覚醒】？　ｓｉｄｅ；神様　ｉｎ　青年（後書き）

はい。コマちゃんズです。
「ロボ」タグ有効になります。
皆さんお察しの通り、タチだったりフチだったり。
ファンタジーな人たち相手なら無双ですよね。たぶん。
でも小ボスとか中ボス相手は荷が重いかもしれません。

戦闘シーン手直ししたら、「残酷な表現」タグも有効になりました。

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第三話　【勇者覚醒】？　ｓｉｄｅ；魔王軍奇襲部隊長（前書き）

再び魔王軍奇襲部隊長です。
なんだか書けば書くほどイイ人（魔ｒｙ）になってしまいます。
当初は、部下もまとめて焼き殺すような外道にする予定だったのですが。
今は、部下思いのプロの軍人というイメージになってます。
でも、出世欲もあります。

第三話　【勇者覚醒】？　side；魔王軍奇襲部隊長

「な、何だ、アレは・・・？」

思わず、呆けた言葉が口をついて出た。

山頂に向かって走り、間もなく円環石柱群（ストーンサークル）の祭壇が目に入る場所まで近付くと、見た事も無い奇妙なゴーレムがそこにいた。

青く輝く金属製の丸い頭と大きく円筒形の身体を持つそれは、蜘蛛の様な脚を持ち、地面を滑る様に駆け回っている。

こんなに速く動くゴーレムなど聞いたことも見たことも無い。

それに火矢魔法（ファイアボルト）なのか？

ゴーレムの両手が火を吹くと、奇妙な唸り声がして、生死を共にした部下達が血煙をあげて倒れていく。

血の海と赤黒い泥の中に、部下達の頭部が、手足が、臓腑が、散乱している。

狭い山道に立ち尽くすオレの方へ、恐怖に駆られた兵士達が走って降りて来る。

背後には、勢いを取り戻した人間共が、血走った目を爛々として迫っている。

青く輝く金属（メタル）ゴーレムは脅威だったが、まだ魔王軍（われわれ）の方が数に勝っている。

恐慌状態（パニック）さえおさめる事ができれば、十分に逆転可能だ。

それに、魔王様より賜った魔法杖剣（ソードスタッフ）がある。

魔法発動体としても強力な”力”を持つ魔法杖剣には、剣先で刺された魔獣を支配する”力”が付与されている。

僅かでも剣先で触れる事ができれば、下等（レッサー）とはいえ、竜種（ドラゴン）すら使役できる強力な”力“が付与された魔法具だ。

「偉大なる竜種の血を引きし竜の裔(すえ)よ！　剣の契約に従い我が命を聞け！」

魔力を高める刻印が施され、一見すると装飾過多の長剣に見える魔法杖剣を天に捧げ持ち、契約の言葉を唱えた。

魔法杖剣に付与された”力”が発動し、上空に退避させていた下等ドラゴンと接続(リンク)した。

勇者召喚遠征軍が魔竜山脈に来るという情報をつかんだ奇襲部隊(われわれ)は、先回りして祭壇近くに住み着いていた下等ドラゴンを苦労して罠に掛けて、この魔法杖剣を使って使役獣にしておいたのだ。

オレの中から魔力が抜けていく感覚が始まると共に、意識の一部が下等ドラゴンと繋がった。

視界の一部が上空から見下ろす情景と重なる。

山頂にある円形の石柱群の中央に立つ男の姿がある。

召喚の祭壇で始末した筈の勇者か？

足元に転がっているのは巫女だろうか。

もしかすると、あの巫女は遺失魔法(ロストマジック)である蘇生魔法(リザレクション)を使えるのか？

遺失魔法は、総じて大量の魔力を必要とすると聞く。

魔力切れ(エンプティ)で失神しているとすれば、あり得る話だ。

遺失魔法を知っているとなると、巫女を殺さなかったのは、正解かもしれない。

魔王様への献上品としては、これ以上の物はあるまい。

あの奇妙な金属(メタル)ゴーレムは勇者の“力”だろう。

勇者を火炎放射(ファイアブレス)吐息で焼き殺したい所だが、勇者と巫女が近過ぎる。

火炎放射(ファイアブレス)吐息は強力だが、それだけに巫女まで巻き込んでしまう。

最初の攻撃の時には、巫女の殺害を確認できなくなる可能性を嫌っ

て、下等ドラゴンの火炎放射吐息の使用を躊躇った。
騎士団と巫女が祭壇に居る時に火炎放射吐息でまとめて焼いてしまおうという考えもあったが、そうしなかった幸運に感謝した。

下等ドラゴンの投入を控えていたのは、味方を巻き込む危険性を考慮した結果だったし、『切り札は最後までとっておく』という自分の性格もあった。
それらの考えが、今の危機を呼んだのかもしれない。
竜の鱗は亀甲人（タートラ）よりも遥かに強靱な防御力を備えているが、火炎放射吐息以外の攻撃手段は、牙と尻尾しか無い。
立派な爪を備えた両手は短く飾りのような物だし、飛んで移動する為か足も遅い。
しかも、人語を解し魔法すら操るという上位竜種（ドラゴン）とは比べ物にならないほど知能が低く、下等（レッサー）の名の通り、トカゲ並の理解力しかない。
狭い山頂に降ろすと、その巨体と鈍重な動きの所為でかえって邪魔になるし、間違って味方を攻撃しかねないので、威嚇の意味で上空に待機させていたのだ。

ともあれ、今は後悔している時ではない。
生き残った部下達を助けなければ。

オレは、接続（リンク）している下等ドラゴンを操り、部下達の背後から襲いかかる人間共を確実に焼き殺せる高さまで、高度を落とした。

第三話　【勇者覚醒】？　ｓｉｄｅ；魔王軍奇襲部隊長（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

第三話　【勇者覚醒】？　ｓｉｄｅ；騎士団長（前書き）

騎士団長です。
拙者です。
武者と書いて《もののふ》と読みます。

時系列としては、第三話　【勇者覚醒】？で勇者（神様　ｉｎ　青年）が、「後ろ後ろ～」ってやったとこからです。

わかりにくくて、すいません。

第三話　【勇者覚醒】？　side；騎士団長

突然、生き返った勇者様が拙者の後ろを指差した。
驚きで呆けていた拙者は、我に返った。

「勇者様は死んではいなかった！　我らが死すとも勇者様と巫女様が生き延びれば、我らの勝ちだ！　武人共（つわものども）よ！　今こそ反撃の時ぞ！」
「「「「ウオオォォォッッ！！！」」」」

勇者様に何が出来るか、武人の拙者には判らないが、意気消沈していた我らに必要だった希望を与えてくれた。
この機会を逃す手は無い。
我ら意気軒高。皆が討死にするとも、勇者様と巫女様だけには生き延びて頂かなくてはならぬ。

拙者も愛剣を手に敵の有象無象に討ち入ろうとした、その時、青く輝く何かが、目の前に落ちて来た。

「何だっ！　何が起こった！」
「わ、わかりません！」

すわ、敵の新手か、と思った矢先、青く輝くそれは猛然と敵の魔族共に襲い掛かった。

人よりも二回りは大きい蜘蛛に似た形の、金属（メタル）ゴーレムだろうか？
見たこともない金属で出来ているらしいそれは、如何なる術（すべ）を用いてか滑るような速度で駆け出した。
身体からすると小さく見える前脚が、突然唸り声をあげ、火を吐い

た。

ヴヴヴヴヴヴ・・・と聞いたことも無い唸り声と共に前脚を動かすと、我らが苦戦していた魔族共が、次々と倒れていく。

剣も矢も跳ね返し、こちらの鎧を貫く槍を持った亀型魔族が、臓物(はらわた)を撒き散らして倒れた。

こちらの攻撃を全て避け、死角から矢を射かけるトカゲ型魔族が、真っ二つに切り裂かれた。

矢を弾き返し剣も槍も届かない長さの長柄戦斧(ハルバート)を振るう岩巨人は、岩肌を砕かれ赤黒い血肉を噴き出して、苦痛の声をあげていた。

黒エルフ(ダーク)が、狗顔魔族(コボルト)が、矮驅鬼人(ゴブリン)が、人喰鬼人(オーガ)が、巨驅鬼人(オーク)が、鱗人魔族(リザーダ)が、亀甲人(タートラ)が、そこに居たありとあらゆる魔族共が、貫かれ、切り裂かれ、打ち砕かれていた。

あまりにも突然の出来事に、拙者も含めて騎士団の全員が、再び呆けていた。

これが勇者様の”力“なのか。

それ以外にはあり得ない。

正直、敵の魔法に倒れた勇者様を見た時は、その行動こそ勇気ある者と思ったが勇者に相応しい武勇の士ではない、と残念に思った。

甦った勇者様を見ても、その印象は変わらなかった。

ところがどうだろう。この圧倒的な強さは！

武勇のみを勇者の資質と思い込んでいた自分を恥じねばならない。

「勇者様の下僕(しもべ)達が血路を切り拓いてくださった！　勝利は我らに有りッ！　憎っくき魔族共を打ち倒すのだ！　我に続けぇぇッ！」

「「「「「ウオオォォォッッ！！！」」」」」

呆けて一度は抜けてしまった気合だったが、敗走を始めた敵の背を見て、再び意気を挙げた。
剣を斧を槍を持てる者は全員、敗残兵共の息の根を止めるべく、猛然と襲い掛かった。
これまで防戦一方だったが、ようやく勝ちが見えて来た。

と思った。

敗走する魔王軍を追撃していた騎士団(われわれ)の頭上に黒い影が落ち、それを見上げた時、己(おの)れの愚かさに目の前が真っ暗になった。

第三話　【勇者覚醒】？　ｓｉｄｅ；騎士団長（後書き）

誤字脱字などご指摘お待ちしてます。
感想など頂けたら、すごく嬉しいです。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6303z/

神様HELP!! or HELL?

2011年12月26日00時46分発行